

報道関係者 各位

2024. 10. 28  
<配信枚数1枚>

**着物の「普段使い」にESD（持続可能な開発のための教育）から取り組む  
「八幡キモノコレクション」を近江八幡市で開催**  
日時：11月16日（土）11：00～15：00  
場所：近江八幡市八幡堀周辺（近江八幡市宮内町）

立命館大学経済学部の寺脇拓ゼミは、ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育\*) による着物の普段使いを普及させるプロジェクトを通じて、アパレル産業が抱える環境問題の解決と、着物の伝統文化継承に貢献することに取り組んでいます。プロジェクト活動の一環として、11月16日（土）に近江八幡市の八幡堀周辺で調査活動を行いながら、地域団体や地域住民、周辺店舗と協働する着物イベント「八幡キモノコレクション」を実施します。

ゼミ生らは、現代のアパレル産業が引き起こす環境負荷の大きさ、および着物の環境に優しい特性を情報として与えることで、人々のアンティーク/リサイクル着物に対する支払意思額と着物の着用頻度がどれほど上昇するかをアンケート調査します。調査は、歴史的な街並みが広がる滋賀県近江八幡市の八幡堀近くにある旧吉田邸を拠点に、新町通りや旧八幡郵便局など、歴史建造物や近隣店舗などをフィールドに実施します。八幡堀を訪れた観光客ら（被験者）に着物の普段使いをイメージしてもらうため、ゼミ生（調査員）はアンティーク調の着物を着用して調査を行います。また観光客の方にも、着物を身近に感じてもらうイベントとして「八幡キモノコレクション」を開催します。イベントでは、旧吉田邸（多賀町758）を拠点に、着物の交換会や着付け体験、着物姿の写真撮影、近隣カフェでの着物をテーマとする和菓子・和カフェメニューの提供などを予定しています。

\*様々な社会問題を主体的に捉え、将来の人類の幸福に向けて身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指す学習・教育活動

寺脇ゼミ（専門：環境経済学）では、地域やコミュニティと協働したPBL (Project-based Learning) 型の学生プロジェクトとして、「リユースによるヨシストロー社会実装化促進プロジェクト」（2022年度/琵琶湖の葦（ヨシ）を原料とする環境配慮型ストローの社会実装に向け、リユースしたヨシストローに対する社会受容性を見極める）や、「渚と森の青空ブックカフェプロジェクト」（2020年度/コロナ禍の影響下において、会話を目的としないブックカフェを屋外カフェで楽しむ空間に対する、人々の選好を分析する）など、過去10年以上に渡り取り組んできました。これらのプロジェクトは「市場で取引されないがゆえに価格がつかず、その価値がよくわからないモノ、すなわち非市場の価値を金銭的に評価することで、それらを含めた社会の発展に貢献する」という点で共通しており、アンケートデータに基づく表明選好型の手法を用い研究を行っています。

【Webサイト】 <https://terawaki-lab.com/>

以上

本リリースの配布先：草津市政記者クラブ

## ■取材・内容について

立命館大学 広報課 担当：岡本 TEL. 075-813-8300 Email. r-koho@st.ritsumeikan.ac.jp